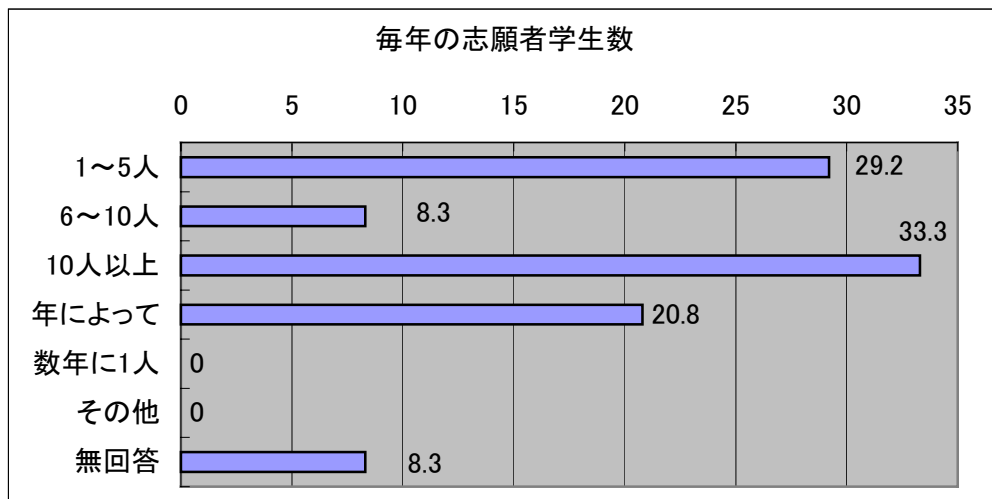


### Ⅲ 就職先アンケート

#### Q 1 志願者数

「本学部の卒業生は、毎年何人ぐらい志願していますか。(採用、不採用に関わりません)」



今回、就職先アンケートの対象とした企業・団体は、本学部が1997（平成9）年3月に初めての卒業生を輩出して以来、通算で3名以上の卒業生が就職している主な企業・団体である。

Q 1の回答からも分かるように、アンケート依頼を行った企業等の約7割が、本学部からの志願者が毎年あり、中でも4割を超える企業等で毎年6名以上の志願者があり、発達科学部の卒業生には就職先として人気の高い企業等である。そのため、これらの企業等は採用時に関しても本学部の学生と接する度合いが高く、アンケート調査の結果には他大学・学部と比較した本学部の学生の特徴が色濃く反映されていると考えられる。

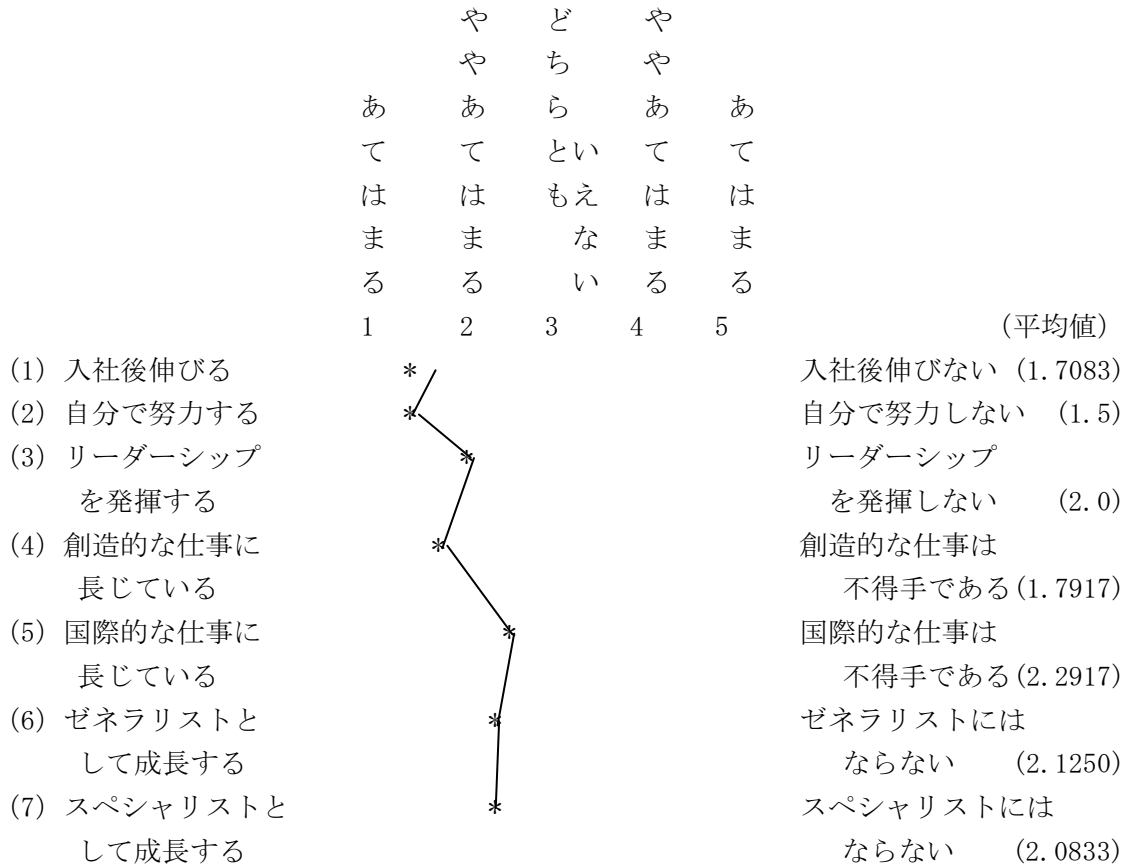
## Q2 本学部卒業生の特徴

「本学部の卒業生は、他の大学・学部の卒業生と比べて総じてどのような特徴があるとお感じでしょうか。」

|                | あ | や | ど  | や | あ | (平均値)             |
|----------------|---|---|----|---|---|-------------------|
|                | て | や | ち  | や | て |                   |
|                | は | あ | ら  | あ | は |                   |
|                | ま | て | とい | て | ま |                   |
|                | る | は | もえ | は | る |                   |
|                | 1 | ま | ない | ま | 5 |                   |
|                | 2 | る | い  | る |   |                   |
| (1) 意欲的である     |   |   |    |   |   | 意欲がない (1.5833)    |
| (2) 判断力に優れている  |   |   |    |   |   | 判断力が乏しい (1.8333)  |
| (3) 責任感が強い     |   |   |    |   |   | 責任感がない (1.4167)   |
| (4) 個性が豊か      |   |   |    |   |   | 画一的である (2.1667)   |
| (5) 創造力に富んでいる  |   |   |    |   |   | 創造力が乏しい (2.0833)  |
| (6) 専門的な知識が豊富  |   |   |    |   |   | 専門的な知識が乏しい (2.25) |
| (7) 幅広い知識を有する  |   |   |    |   |   | 知識の幅が狭い (2.0417)  |
| (8) 国際的な視野を有する |   |   |    |   |   | 国際的な視野が狭い (2.25)  |

### Q3 入社後の特徴

「この10年間に貴社に採用された本学部の卒業生には、他の大学・学部の卒業生と比べて入社後どのような特徴があるとお感じでしょうか。」

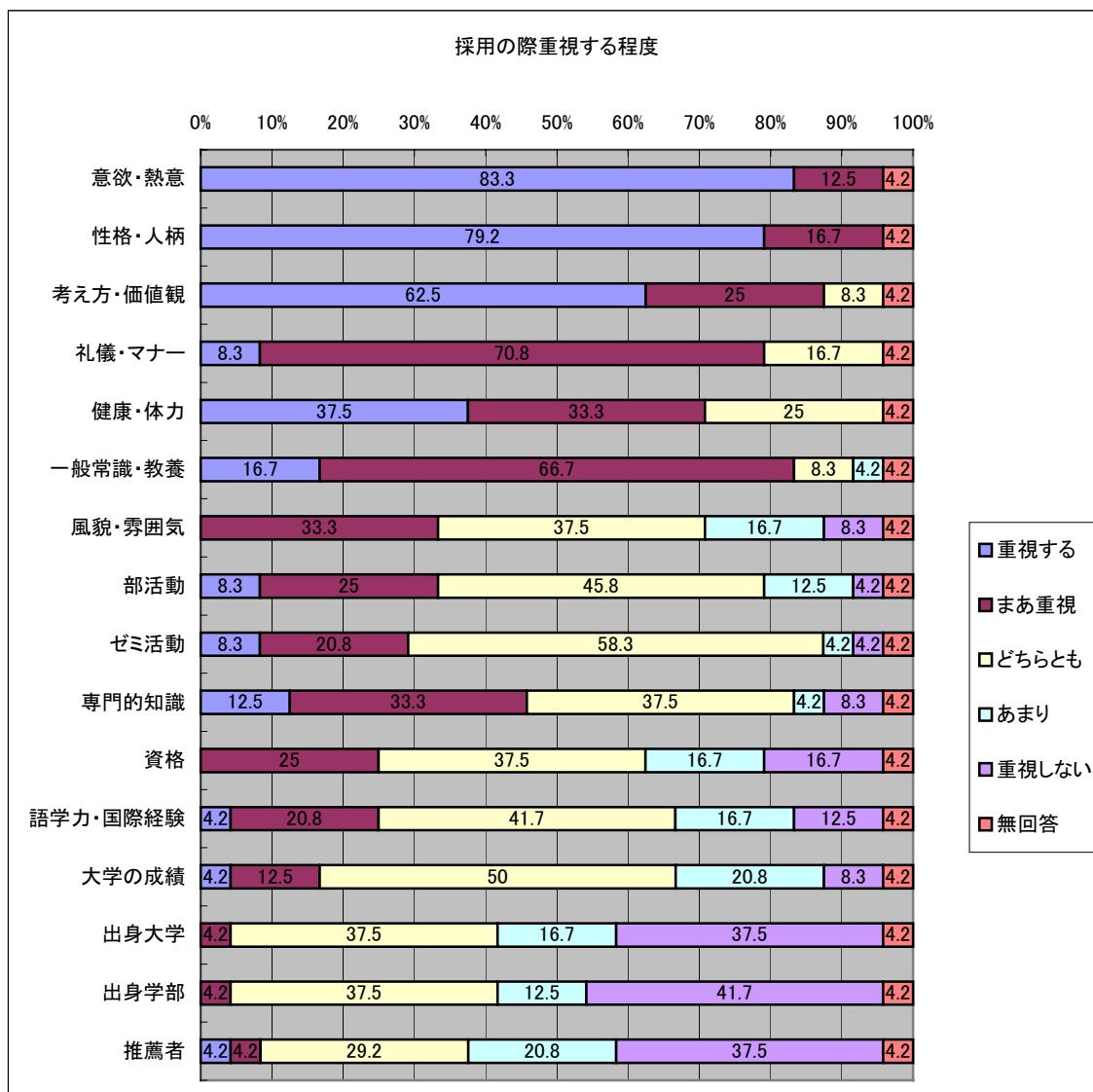


本学部卒業生の特徴に関して、**Q2**、**Q3**で質問した。**Q2**では入社前（採用段階）の本学部の卒業生の特徴を聞いているが、企業等は本学部の卒業生を設問事項に関して概ね好意的にとらえている。ただ、「専門的知識が豊富か否か」「国際的な視野を有するか否か」については設問事項中、平均値が最低であり、きわだって特徴的だとは考えていないようである。また、**Q3**の入社後の特徴についても「国際的な仕事に長じているか否か」は平均値が最低であり、この点に関して、目立った能力を發揮しているとは言い難い結果となった。このように、発達科学部の卒業生は「国際的」な視野を有したり、「国際的」な仕事に長じているかについて、他の大学・学部と比較してとくに秀でているとは言えないようである。このことは「Ⅱ 卒業生アンケート」の**Q5**「学生生活に対する評価」において、本学部での学生生活で「国際的な視野をもつようになったかどうか」の問いに卒業生の多くが否定的な回答をしていることと通じており、今後、本学部が取り組むべき改善点の一つの方向性を示唆しているように感じられる。

#### Q4 採用に際して重視する事柄

採用に際し16項目について、それぞれ「重視する」「まあ重視する」「どちらともいえない」「あまり重視しない」「重視しない」の5つで評価を行うことを求めた。各項目に対する評点（重視する＝1～重視しない＝5）の平均を算出したものが次表である。平均値が1に近いほど重視することになる。

「貴社は、一般に採用に際して、以下の項目をどの程度重視されますか。」



| 項目         | 平均値    | 項目           | 平均値    |
|------------|--------|--------------|--------|
| (1)意欲・熱意   | 1.0833 | (9)ゼミ活動      | 2.6250 |
| (2)性格や人柄   | 1.1250 | (10)専門的知識    | 2.5000 |
| (3)考え方や価値観 | 1.3750 | (11)資格       | 3.1250 |
| (4)礼儀・マナー  | 2.0000 | (12)語学力・国際経験 | 3.0000 |
| (5)健康・体力   | 1.7917 | (13)大学の成績    | 3.0417 |
| (6)一般常識・教養 | 1.9167 | (14)出身大学     | 3.7500 |
| (7)風貌・雰囲気  | 2.8750 | (15)出身学部     | 3.7917 |
| (8)部活動     | 2.6667 | (16)推薦者      | 3.7083 |

企業等がもっとも重視するのは「意欲・熱意」であり、次いで「性格や人柄」であった。他にも「考え方や価値観」「健康・体力」など個人個人の持つ資質を企業等は採用に際し、重視するのがうかがえた。そして、大学における諸々の活動に対しては、「部活動」「ゼミ活動」が約3割、「大学の成績」が約2割の企業等が重視する（「まあ重視する」を含む）と回答したにとどまった。

「Ⅱ 卒業生アンケート」の**Q7**「就職・進学に際し相手方が重視したと思う事柄」では、多数の卒業生が、相手方が「神戸大学出身であること」を重視したと考えていた。

しかし、「出身大学」や「出身学部」は採用に際して、あまり重視しておらず、卒業生と企業等との意見の相違が見られた。ただし、**Q7**は就職の際だけではなく、進学の際についての回答も含んでいる。また、企業等に依頼したアンケートとは設問項目が異なっている。よって、今後、機会があれば、卒業生と企業等に対して同一の設問事項でのアンケート調査を行えば、より正確な比較ができるであろう。

以上、就職先アンケートの調査をみてきた。

「Ⅱ 卒業生アンケート」の**Q4**「授業に対する評価」**Q5**「学生生活に対する評価」において、半数以上の卒業生が就職・進学に関して本学部が授業面や有益な情報・人脈獲得に貢献したとは考えていない。そして、**Q11**「本学部に関今後期待すること」では多くの卒業生が就職・進学への取り組みを改善・充実させるべきだと感じている。そのためにも、今回のアンケート調査の結果をふまえた上での、これからの発達科学部における就職支援活動を展開していく必要がある。